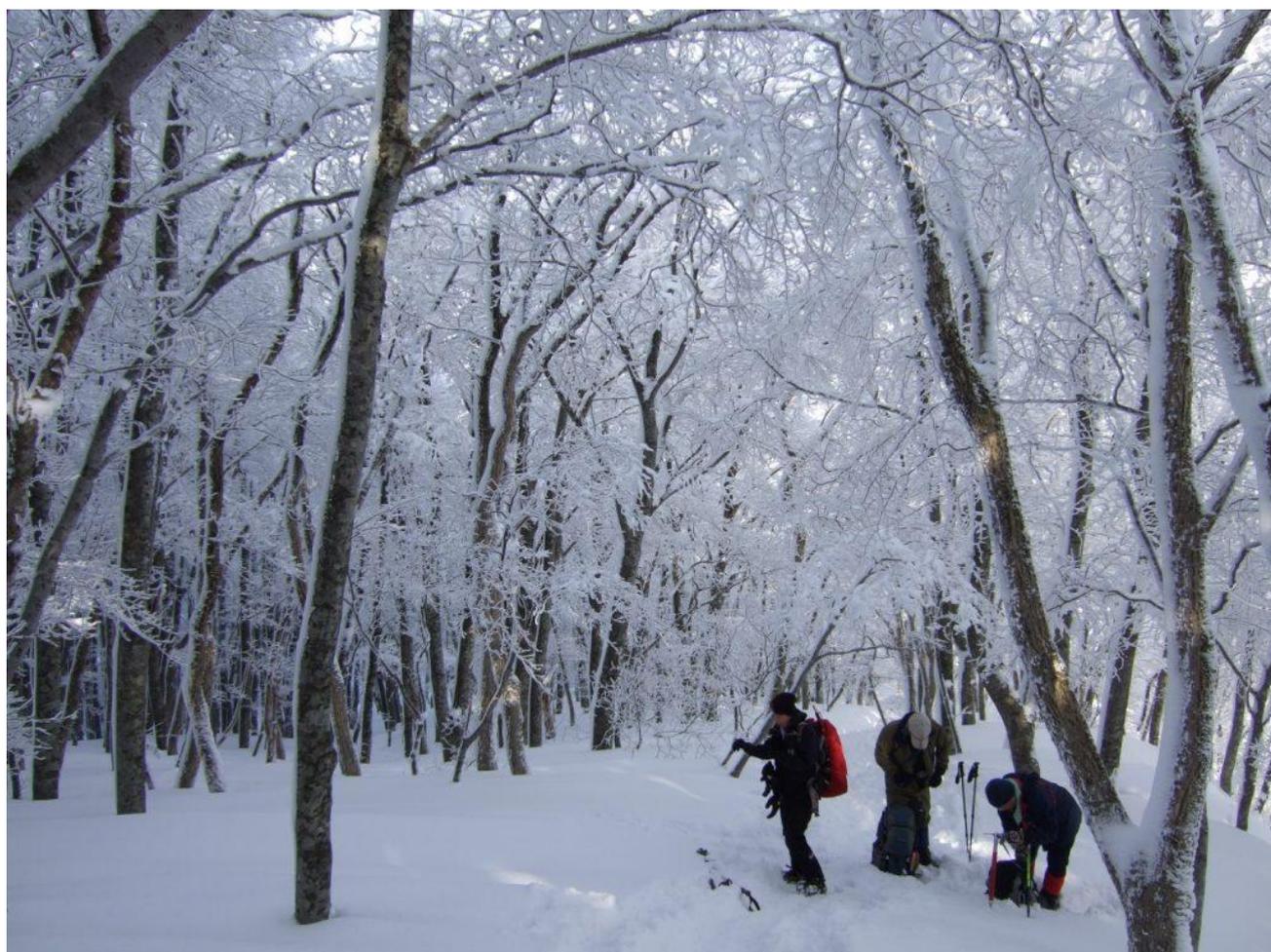


おれんじニュース

No264

2012年3月号



2012年2月11日 大山のブナ林にて

★集会・委員会のお知らせ★ 山行の一步は集会参加から				
	2012/3月	2012/4月	時 間	場 所
運営委員会	7日(水)	11日(水)	19:00~21:30	西諫早公民館
ひまわり集会	2日(金)	6日(金)	13:30~15:30	西諫早公民館
定期総会		7日(土)	10:00~15:00	西諫早公民館
全体集会	21日(水)	25日(水)	19:00~21:30	西諫早公民館





かわらけやま
土器山



たすけ
てくれ



ひっば
るよ～



おいんとは
こんぐらい。



不動岩



僕んとはこん
ぐらいかな





3月山行計画

部	山行部	技術研修部	ひまわり山行部
月・日	10日(土)11日(日)	20日(火)祝日	30日(金)
山名(行事)	多良岳縦走マンサク鑑賞登山	金立山(501.8m) 佐賀県	森山町観桜会
地 図	多良岳	広滝・佐賀北部	
集合場所	西諫早駅 10:00	西諫早駅 8:30	諫早駅前 8:30
難易度	レベルに合わせてコースが選べます	楽に登れます	ゆっくり桜を愛でながら
帰着時間	15:00	17:00	16:00
歩行時間	3.5h	2.5h	3.5h
交通手段	マイカー	マイカー	公共交通機関
宿泊施設	金泉寺	日帰り	日帰り
温泉	平谷温泉		有り
参加費	3,000円	2,500円	交通費のみ
申込期限	随時	随時	随時
集 約	田中	佐原	中村
備 考	金泉寺泊をしマンサク鑑賞しながら経ヶ岳へも登ります	不老不死の薬草を求めた徐福の伝説の残る山	桜だけでなく自然の緑が美しいでしょう
感想文提出	3/20	3/28	4/10



県連・梅園の整備作業&交流会

日時：3月3日 西諫早駅9:00集合

持参品：参加費(500円野菜200g)弁当・草けずり道具
作業終了後、鍋会を行います。 申込み松園まで

写真展開催

3月18日(日)~25日(日) 長崎石丸文行堂 6階

県連全体で120点予定。

オレンジハイキングからは15点展示します。



4月山行計画

部	技術研修部	山行部	技術研修部	ひまわり山行部	技術研修部
月・日	1日(日)	8日(日)	15日(日)	20日(金)	4/29(日)～ 4/30(祝)
山名(行事)	由布岳(1583.3m) 日向岳(1085m)	がんじゃくさん 岩石山(454m)	城山(勝尾)498m しゃくしがみね 杓子ヶ峰(305m)	かどやま 天草角山(525.9m) 荒尾岳(342m)	大崩
地図	別府西部	英彦山	鳥栖・中原	鬼海ヶ浦 天草高浜 河浦	祝子川・大菅
集合時間	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	諫早駅裏 7:00 西諫早駅 7:10	西諫早駅 8:00	西諫早駅 7:00	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30
難易度	やや健脚	初心者	初心者	楽に登れます	やや健脚
帰着時間	19:00	18:00	17:00	18:00	20:00
歩行時間	6.0h	3.0h	4.0h	6.0h(含休憩)	1日目(4h) 2日目(5h)
交通手段	マイクロバス	マイクロバス	マイカー又は マイクロバス	マイクロバス &フェリー	マイクロバス
宿泊施設	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り	大崩の茶屋
温泉	有り	有り		下田温泉	有り
参加費	5,000円	5,000円	3,000円	マイクロバス・ フェリー代実費	15,000円
申込期限	定員になり次第	定員になり次第	定員になり次第	定員になり次第	定員になり次第
集約	佐原	田中	佐原	中村	佐原
備考	自然観察路も歩 きます	観桜および岩 山散策	山城をめぐり ます。	天草の山 展望もすばらし い。	アケボノツツ ジのベストタ イムです。
感想文提出	4/10	4/18	4/25	4/29	5/10

技術研修部より

- 2月25日(土) セルフレスキュー (JR西諫早駅9:30集合)
 3月24日(土) セルフレスキュー (JR西諫早駅9:30集合)

2012年1月/2月の山行報



1月9日(祝日)

佐賀県 土器山 (かわらけやま) 429.9m

(参加者) 川原、佐原、林、坂口、田中(静)、林田、中里、中村、松園、鎗水、山下、下釜、川内、中須賀、國分、小山、樋口 (外) (17名)

(行程) 西諫早 8:30—東背振—(國分合流)—八天神社登山口 10:30—中宮—土器山山頂 12:00—昼食—出発 12:50—八天神社登山口 13:45—温泉 14:45—仁比山神社—伊東玄木邸—東背振—西諫早 17:00

「親不孝しないかァ」「はいッ」

「ほんとうかァ」「はいッ」

「ご無沙汰しています。今日はお世話になります。よろしく」と声をかけると「久しぶりね、元気だった？」と気持ち良く歓迎してくださるオレンジの面々。山行に参加させて頂くのは、去年2月の岩宇戸山以来ほぼ1年ぶり。懐かしい顔、顔が昔と変わらない温かい笑顔で迎えてくださる。

佐賀県神埼町にある土器山 (かわらけやま) 429.9m、八天岳とも呼ばれている山岳信仰の霊山が今日登る山である。山名の「かわらけ」とは参詣者が祈願のため土器を上宮に納める習わしがあったから付いた名だとか。(とても読めない)

西諫早駅8時30分出発予定なので、日課の愛犬の散歩を終えて十分間に合う時間でありがたい。参加者は飛び入りの私を入れて総勢17名、近場なので乗用車3台で出発する。

少し曇ってはいるが、風もなく気温も十度前後で穏やかな登山日和。

高速を東背振で下車。車を仁比山公園に駐車、佐賀健康保養センター「かんざき」を横に見ながら登山口の八天神社に向かう。まず神様にお参りを済ませ、登山口である鳥居をくぐって登山開始。

手入れの行き届いた竹林の中を登り始めると、鉄線が張り巡らしてある。筍を猪の食害から守るためであろう。登山道は比較的整備されている。丸太でところどころ止めてあるが、脆い花崗岩が崩れてザラザラしているので気が抜けない。

登り始めて20分ほどで早くも衣服調整。中には半袖になった人も。標高は高くないが、実に登りがいのある面白い山だ。

山岳信仰の霊山だけあって山全体が低山には珍しく自然林で覆われている。冬枯れの中、常緑樹に混じりモミジ、ウルシ、ハゼ、ヌルデ、ネジキ、ニシキギ、コマユミ等など。「紅葉の頃はきれいかよね」「ここだったらまた登りに来れるね」等おしゃべりが弾む。

また、霊山にふさわしい巨石がかなりの数見られること。上宮では大岩そのものが御神体である。

さらに、山全体が白っぽい脆い花崗岩で形成されていること。ネットで調べて見ると、花崗岩とは「石英、長石、とを主成分とする比較的粒の粗い岩石の総称。他に黒雲母等も含まれ、色は純白、ないし淡灰色、磨くと光沢が出る。石碑、建築、土木と用途が広く、御影

石等。とあり、造成地等に用いられる真砂土として抛出されている。」とあった。

なにせこの花崗岩が脆く、登山道に至る所岩盤がV字溝になり、崩れてざらざら、それだけに変化に富み実に楽しいが油断が出来ない。低山なりに傾斜も結構あり段差もある。何よりも滑らないように要注意である。4、50分登ると平坦な場所に出た。ここが中宮善堤寺である。崩壊寸前の廃寺で哀れを誘う佇まいだ。すぐ側に水場があり、冬場にあっても花崗岩の岩間から清らかな水が湧き出ている。甘くてまるやかな味だ。

ここを過ぎてしばらくすると一番の難所が待ち受けていた。思わず「うああすごかあ」背丈を越す高さV字に道がえぐられ、おまけにくねって狭くまともに通れない。幸い迂回路があるので、太めの私は最初からあきらめて迂回路を利用。果敢にも挑戦された人は何人？服の汚れも気にかけず冒険心を満足させた人は偉いッあっぱれ！

さて、この後はすぐに「親不孝岩」へ出る。東の方は親不孝者がこの岩の下を通ると落ち掛かってくるという。峰入りの時は合掌の姿勢で逆さに吊るされ、罪を懺悔し、改心を誓わせられたような。「親不孝しないかッ」「はいッ」「ほんとうかッ」「はいッ」返答次第では命綱が一瞬手離されるとか。岩上から佐賀平野が一望できたが、あいにくの霧で視界は霞んでいた。

立て看板に「南面の合い支え合う二つの巨岩は、金剛界（男）と胎蔵界（女）の岩。修験者達はその隙間をくぐって「胎内くぐり」という再生儀式を行った」とある。そこでオレンジの勇氣ある一人が挑戦し成功、すると後に続け、とばかり衣服の汚れもものともせず、われもわれもと潜りだしたのはよいが、一方通行になっていて大混雑、同じ隙間を往復しなくてはならないのだ。時間のかかることはなほだしい。そこでオレンジならではの奥の手、ロープワークで別ルートを開拓。スムーズに胎内くぐりを体験出来るようになった。全員潜った？

10分ほどであずま屋、ここからの眺望も素晴らしい。しばらく歩きづらい道が続いたかと思う間もなく立派な御影石の階段に出る。「ずいぶんと立派な階段ね」「どがんして運んで来たんやろう」「ヘリコプターで運んだと思うよ」等、ここまで登ってくると会話も弾む。上宮到着である。



いくつかの花崗岩の巨石が重なり御神体になっている。社殿はなく岩の根元に小さな祠が祀られているのみである。御神体の大岩は登れるようになっていたが、恐れ多いと登らず、そのまま頂上へ。山頂は狭く、4等三角点にタッチした後上宮、あるいはあずま屋まで戻り昼食とする。帰り際にやはり心残りとして御神体の大岩に登らせて頂いた。下りも誰一人滑る人もなく無事八天神社境内に到着。

保養センター「かんざき」で汗を流し、仁比山神社、（有名な紅葉の名所）伊東玄木邸見学の後、17時西諫早着。本当にお世話になりました。楽しい山行有難うございました。

**神宿る大岩まろく冬ぬくし
伝説の肥前の大岩冬籠**

（樋口 千代 記）

1月15日(日)

不動岩(388m)

(参加者) 中須賀、福岡、鎗水、林田、林、川内、小山、川原、山下、金丸(直)、中野、佐原、岩永、松尾(敏)、中里 (15名)

(行程) 西諫早駅発 7:17—金立 8:15—玉名 9:20—彦岳下宮 9:40—金比羅神社駐車場 10:20—穴観音 10:30—前不動岩下 11:00—中不動岩頂上 11:15—後不動頂上(蒲生山 388, 52メートルとあり) 11:56—昼食—下山開始 12:30—後戻りの決定 12:50—後不動頂上 13:15—金比羅神社駐車場 13:54—湯花里温泉 14:50—湯花里温泉出発 15:50—西諫早駅 18:30

(感想) 今回は、参加を予定されていた方数名に捻挫などの事故があり、急遽不参加となったためメンバーや役割の変更がありました。そのため、西諫早駅のスタートが予定より少し遅れましたが、天気と多くの参加者に恵まれた山行となりました。

貸し切りバスの車中では鎗水氏や川原氏によるロープワークの実習で盛り上がり、初心者の方は魔法のような手さばきに見とれると共に、飛び交う言葉の難しさにチンプンカンプンの面持ちでした。また、中須賀チーフリーダーからは本日の山の魅力とコースの説明等があり、興味と意欲が高まりワクワクしていました。

彦岳下宮で安全登山の祈願をした後、登山口の金比羅神社駐車場に向かいましたが、車中から見える前不動岩、中不動岩、後不動岩の珍しさと立派さに圧倒されました。金比羅駐車場での入念なストレッチの後、登り始めた直ぐの所に「穴観音」という祠がありました。そこには、何と男性の逸物をかたどった木型がたくさん奉納されており、メンバーの男性諸氏は手に手に自分に見合った物を持ち、記念撮影としゃれ込んでいました。中には、願望を込めたものだったのか偉くデカイ物を握った方もいましたよ。



木の根が露出した山道を登る所々に、大岩信仰があるらしくお参りするところがあり、不動明王に参拝する頃にはお賽銭も尽きていました。388メートルの高さとは言え、登り始めて15分ほどで衣服調整が必要になるほどの坂の連続でした。前不動で記念撮影をした後は中不動頂上を目指し、15分ほどで絶景と恐怖の断崖の中不動頂上に至りました。こわごと下を見下ろす人や勇敢にも端っこまで進む人など中不動を十分に味わった後、最終目的地の後不動を目指しました。後不動の頂上は展望はききませんでしたが、野鳥の囀りが絶え間なく聞かれ、風もなくて絶好の昼食タイムとなりました。黙々と食事する男性陣に引き替え、女性陣は小鳥にも負けない賑やかなお喋りで盛り上がり、雰囲気は最高!

下山開始後すぐに、うら若き女性3人組の山ガールに遭遇し、男性諸氏の表情や動きに若々しさが蘇った気がしたのは私だけでしょうか。彼女らも仲間に入れての下山となりましたが、ロープを渡しての岩渡りでの男性陣の頑張りやサポートぶりには山男の面目躍如という趣

がありました。やっと、鎖を張り巡らした谷の下山路に到着したものの、無情にも立ち入り禁止の札がぶら下がっていました。先の山ガールによると、昨年登った時には大丈夫だったとのことで、年ごとに変わる山の様子を改めて認識しました。新しい下山ルートを探して下りはしたものの行き止まりとなり、数人の方がなおルート探しに出向かれましたが、断崖絶壁に阻まれているとのことで後戻りをする事になりました。

後不動頂上からは、ひたすら下りで、35分ほどで登山口に到着しました。折しも、とってもとっても小さな鳥居を見つけた山下氏は、持ち前の冒険心で早速にも鳥居潜りに挑戦です。彼女は思いの外スマートらしく無事に潜り抜けることができたようで、それを見た女性陣も続けて挑戦していたようでした。

中須賀氏推薦「湯花里温泉」は、安くて、広くて、種類の多い湯船の天然温泉で、とっても素晴らしい所でした。しかも、たっぷりと1時間も時間を取ることが出来たので、全員大満足で真っ赤な顔を火照らしながらビールや酒を手に車中の人となりました。車中では、この素晴らしい山行を計画して下さった方々への感謝や慰労の歌声などで過ごし、無事に西諫早駅に帰り着きました。本当に、有意義な山行を計画してリードして下さいました。お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。



(中里 利行記)

1月22日(日)

矢護山(942m)から無動寺跡そして鞍岳(1118.6m)

(参加者) 川原、小山、田中(静)、松園、鎗水、中須賀、下釜、山下 (8名)

(案内人) 熊本の吉本ご夫妻、中村氏、久本さん (4名)

(行程) 諫早駅裏 6:00—西諫早駅前 6:10—高速諫早 IC—金立—熊本 IC—大津道の駅 8:50
(吉本氏達と合流)—陽の原キャンプ場 9:10—ストレッチ—出発の橋 9:30—矢護山山頂 11:20—昼食—出発 12:00—無動寺跡 13:00—鞍岳頂上 14:05—鞍岳登山口 14:30—四季の里温泉 15:10—温泉出発 16:00—植木 IC—諫早 IC—諫早着

(感想) 矢護山は 100 名山にも載ってない地味な山だけれどここからは鞍岳にも行けるとい
う情報を入手。是非、縦走してみたいと思った。頂上からの直登ルートはブログにたよるしかない
と不安な気持ちをかかえて当日を迎えたが川原さんがそんな気持ちを見透かしたように地元熊本の登山ガイドの吉本さんに案内を頼んであった。吉本さんとは八ヶ岳の山荘で一緒したことがある。大津の道の駅で吉本さん達と合流し先導していただいたお陰で陽の原キャンプ場には 9 時半ごろ着いた。簡単にストレッチした後出発の橋を渡った。



この矢護山はキャンプをしにくる子供達に向けてだろうが案内板などがとても親切で

おもしろい。りっぱな自然石を切り取り裏に動物の足跡をレリーフしてある。鞍岳方面と矢護山方面に別れる所は「心構えの広場」と書いてある。まずは矢護山へのルートに行く。吉本さんはゆっくりゆっくり歩いて下さる。途中のケルンもきれいに円錐形に小石がもってある。誰かが小石を拾ってその上に上手に積み上げていた。30分程登った所に大きな杉の木が二本たっていたがこれが夫婦杉だったのであろうか。その杉の横を巻くように進んでいくと少し急登になってきた。足元にはキツネノカミソリの葉が顔をだしていた。先の方では群生する所があるらしい。しばらく行くと突然山が一面木を刈り取られた場所に出て良く見ると桜や紅葉を植えてあった。重機が入った跡みたいな道まで作られていて何でこんな所に桜や紅葉の名所を作らねばならなかったのか意味がわからず、吉本さんに尋ねたら、「こんな所に誰が花見にくつとでしょうね？」と同じ気持ちのようであった。全く無駄な開発のようであった。刈り取られた所をすぎて杉林の急登にはりっぱなロープが杉の幹に巻いて下ろしてあったが杉の幹にロープが食いこんでくびれていたのが痛いたしかった。2時間足らずで頂上に着きざっと景色を楽しんだ後昼食にした。ベンチが置いてあり少し薄日も射ってきて1月とは思えない様な山日よりである。さて、ここからが本日のメインルート。鞍岳へのルートである。山下の希望のコースなので下調べは入念にしてきたつもりだ。ただ、矢護山頂上からどのように道標がついてるか不安だった。とにかく北に向かって登れば良いとブログの持ち主はおしえてくれた。さてさて、本日は吉本さんの案内なのでそちらに付いて行くこととする。ちなみに矢護山の頂上には鞍岳への縦走ルートへの道標は置いてなかった。ただ、登って来たのと反対側に分かりやすい踏み跡があった。

頂上で少し早い昼食をとってから吉本さんをトップに無動寺跡のほうへ向かった。随分谷底へと下りるルートをとった。この道はあまり歩かれてない感じで崖が崩れて通るのもやっとの所を縫うようにして進んだが変化があって面白かった。無動寺跡には13:00頃到着。ここからは迷うところも危ない所も無いので先頭をゆずってもらって、山下がトップを歩いた。結構な登り続きだったが阿蘇まできたら温泉がいっぱいあるから何とか温泉に入れるようにとつつい急ぎ足になった。無動寺跡から40分程で鞍岳登山口に着きそこから25分も行くと鞍岳頂上だった。車道でレンタカーの井の上さんが来てないので川原さんと連絡を取ってたら鎗水さんに先をこされてしまった。ここでも吉本さんからあちこちの山を案内していただきさっき登った矢護山等との位置関係が少し分かった。帰りには四季の里の温泉で汗を流し気持ちよく家路に着いた。矢護山から鞍岳へのダイレクトルートは今回分からなかったけどだいたい見当はついた感じ。次回のお楽しみということで。(山下 記)

1月27日(金)

稲佐山(332m) 金比羅山(366m)

(参加者) 小山、兵庫、佐藤、松尾(香)、中里、佐原、林、山下、金丸(直)、林田、川内、中村、近藤(外)、(13名)

(行程) 諫早駅 8:46—JR—浦上駅 9:20—長崎もみじ谷火葬場登り口 9:45—稲佐山展望所 10:50—路線バス乗車—宝町—路線バス乗車—立山バス停—立山公園 12:30—昼食—金比羅山(どんく岩) 13:30—穴弘法寺 14:40—諫早着 15:05

(感想) 浦上駅に着いた時には、天気も良く絶好の山行日和であった。

長崎もみじ谷葬場より登山開始。雑木林の中を歩くと先日からの雪の間からまっ赤な苺の実、花木の小枝には蕾を付け春の息吹を感じながら稲佐山の山頂に到着。

展望所より、港を眼下に見て、百万ドルの夜景と言われるように遠くは伊王島、岩屋山と、絶景を眺める事が出来ました。

金比羅山へは長崎バスで立山まで移動。

桜の名所、立山公園で昼食を済ませました。そこから、市内の中央に位置する金比羅山に向かって再び登山開始。とちゅう、金比羅神社の鳥居をくぐったところからルートを金星観測記念碑の有る方に取りそこでは女神大橋、八郎岳、等の絶景を眺めて山頂へ。

時間の関係でドンク岩より上には向かわず、下山は諏訪神社へのグループと穴弘法寺へのグループに別れた。私は穴弘法寺へのルートを下りた。

途中、昔からハタ揚げ合戦が盛大に行われた広場を通り原爆戦没者慰霊碑のある広場に到着。そこから整備されてはいるが急な階段をかなり下りるとまもなく長崎四国八十八カ所の穴弘法寺に到着。参拝をしていたら、若い住職が皆に温かいお茶を淹れてくれた。

このお茶で一息つく事ができ、疲れがふっ飛んでしまった。この若い住職は境内の歴史や石仏など詳しく説明してくれた。眼下の市街地が原爆投下中心地だったため、爆風で顔や手が溶けて欠けている石仏の存在も語ってもらった。

又、先代の住職が訪問先で一杯のお茶をいただいて帰った為原爆の難を逃れたとのこと。それからは参拝の皆さんとのご縁に感謝して必ずお茶を供するように心がけているとおっしゃっておられました。

天気にも恵まれ、心に残る楽しい山行も無事終え、諫早に早めの帰宅でした。

皆さま、お疲れ様でした。最後になりましたけど今回の山行案内をして下さった近藤さん、大変お世話になりました。秋の紅葉時期に素晴らしい所があるので是非来てくださいとのこと、楽しみにしています。 (松尾 香一記)

2月9日(木)～12日(日)

楽しくも厳しかった大山

(参加者) 川原、坂口、岩永、山下、田中(シ)、鎗水 計6名

(行程) 2/09 20:30 諫早発

2/10 07:50 大山寺～10:00/14:00 雪上技術訓練(阿弥陀堂)～16:50/19:00 交流会(とやま旅館)

2/11 08:30 登山口～09:00/13:00 雪山登山(7合目往復)～13:15/15:30 雪上技術訓練(阿弥陀堂/下山キャンプ場)～18:30/20:00 交流会(ホテル)

2/12 08:30/11:30 雪上技術訓練(下山キャンプ場)～21:30 諫早着

(感想)

夜行バスでの寝不足も、雪山の寒気で吹き飛んだ。

大山は3度目になるが、厳冬期の大山は初めてであり、6合目以上はガスに包まれ荒れ模様。

県連企画の今回の目的は、雪上技術訓練と雪山登山である。雪上技術訓練は日本で最先端の技術を持つ滝上氏の指



導を受ける。阿弥陀堂の斜面を利用した種々の滑落停止では、簡単なことからやさしく指導していただいたが、合わせ技になってくると中々うまくいかない。これは数多く練習し、体で覚えるしかない。でも雪まみれになり急斜面を滑るだけでも結構面白かった。

ロープワークは抵抗なく理解出来、その応用もスムーズに出来た。これも日頃のセルフレスキュー訓練のお陰、新たに学んだ方法も2点あり、大変有意義であった。会員の皆さんも山に登る限り必ず必要な場面に遭遇します、ぜひ毎月末の訓練には参加を！

また、雪崩の危険を回避するための弱層テストなど、科学的な確認方法も学んだ。

11日には、弥山を目指して雪山登山。登山開始からしばらくは青空も見えていたが、5合目を過ぎるあたりから、風雪にさらされホワイトアウト状態。2m以上の積雪の山稜を歩いているのに、両脇に雪の壁が出来ているような錯覚を覚える。

リーダーの指示で7合目あたりから引き返す。すれ違う登山者の中には4つ爪のアイゼンを付けている人もいた。無雪季とは全く違う様相を示す冬山を甘く見てはいけないし、無理は禁物。楽しさとは別に、厳しさを学んだ良い企画であった。

(鎗水 記)



矢護山から

鞍岳へ



矢護山登山道のケレン



矢護山頂上から無動寺跡におりる



稲佐山の動物園の前にて我らも動物？



金比羅山の広場に

写真提供
小山氏



穴弘法寺、原爆でずれた岩

おれんじニュースNo264	
発行元	オレンジハイキングクラブ
発行責任者	福岡正廣
編集責任者 及び 原稿送付先	山下ちず子
発行年月日	2012.2.22
財政担当	
郵便振替講座	
ホームページ	http://orangehikingclub.web.fc2.com/

